

要 旨

昭和十六年度ニ於ケル日滿一体ノ石炭需給計畫ハ、人造石油事業ノ遅延ニ伴フ原料炭ノ余剰ト滿洲新五ヶ年計畫ニ依ル石炭増産ノ結果、左記ノ如ク修正セラル可キモノトス。

昭和十六年度石炭需給表 (單位千吨)

所 要 量	自 給 量	過 不 足	日 本	滿 洲	合 計
八五八〇〇	七六〇〇〇 (七三五〇〇〇)	(一) 一九八〇〇 (一三三〇〇〇)		二一八三〇 三四九一〇	一〇七六三〇 一一〇八九一〇 (一〇八四一〇)
					(三) 三二八〇〇 (七八〇〇)

註 括弧内ハ現狀ノマ、特別ノ政策ヲ施サス推移セル時ナリ。

尙最近物動計畫ノ一層強調サルルニ及ヒ、各種産業擴充計畫ハ資材其他ノ關係ヨリ所期ノ如ク進捗セサルモノニア、ルカ故ニ、昭和十六年度ノ石炭生産量ハ少額ニ見積ル方可ナランカ。

ニ以上ニ依ツテ觀レハ、昭和十六年度ニ於ケル日滿プロツク内ノ石炭需給關係ハ、特殊炭ヲ除キ略々自給自足ノ域ニ達スルモノト云フヲ得可シ。即チ所期ノ石炭増産計畫カ遂行サルル時ハ三百万噸ノ余裕分ヲ生スル見込テアリ、小規模ニ見積リテモ尙且八拾万噸ノ余裕ヲ發フルモノナリ。是等ハ人造石油工業カ技術的ニ急速ノ進歩ヲ遂ケ多量ノ原料炭ヲ必要トスル時ニ用意ス可シ。

若シ夫レ国防産業擴充計畫カ急激ニ進展シ、更ニ多量ノ石炭ヲ需要スルトスルモ、埋藏量百二拾億噸ヲ超ユル滿洲炭業界ノ活潑ナル最近ノ情勢ヨリスレハ、容易ニ本プロツク内ニ於テ賄フヲ得ルモノナリ。

ニ北支石炭開鑿ニ關シテハ、別途意見ヲ開陳セル如ク、現下ノ資材供給困難、其他ノ情勢ヨリ第一次計畫トシテハ、戦禍ニ依ル破壊箇所ノ復舊程度ニ止ムルヲ以テ可トスヘシ。

而モ復舊程度ノ生産能力ニテ當分ノ中國々内需要ヲ充足シ得可ク、既ニ檢討シ來レル如ク日滿石炭需要關係ヨリスルモ特殊炭ヲ除キ多量ノ北支炭ヲ急速ニ開發輸入スル必要ヲナキニ庶幾シ。

假ニ現在ノ計畫ニ於ケル日滿プロツク内ノ石炭需要ノ激増ヲ見ルコトアリトスルモ、滿洲石炭開發ニ全力ヲ注ク可キモノニシテ、北支ニ於ケル石炭開發ハ第二次計畫ニ讓ル可キ性質ノモノト思料ス。

然レトモ固ヨリ東洋プロツク内ニ於ケル本邦ニ對スル北支炭ノ重要性ハ言ヲ待タサル所ニシテ、更ニ引續キ來ル可キ第二次生産力擴充計畫ニハ、大々的ニ無盡藏ノ北支炭ニ依存セラル可ク、大規模ノ開發カ期待サルルモノナリ。